

株主の皆様へ

これまで以上に厳しい視点でANAグループの経営改革を進めます

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、2010年3月期第3四半期(累計)は、国内線旅客収入が前年同期比13%減、国際線旅客収入と国際線貨物収入がそれぞれ35%減、34%減といった非常に厳しい状況となる中、「緊急対策プラン」「緊急収支改善策」を着実に実行し1,000億円規模のコスト削減を行いました。しかしながら、1,800億円を超える大幅な収入の落ち込みに追いつかず、残念ながら営業損失378億円、経常損失576億円、当四半期純損失351億円を計上するという結果となりました。

一方、本年1月19日には日本航空が会社更生法の適用を申請するという、大変大きな出来事もありました。「日本航空への多額の公的資金投入が競争環境を歪曲させることがあってはならない」という考えの下、今後のグローバル競争や、再建を終えた日本航空をはじめとした他航空会社との競争を視野に、これまで以上に厳しい視点で事業の仕組みや仕事の進め方を抜本的に見直してまいりたいと考えております。

長引く景気低迷により、厳しい経営環境が続くものと予想しておりますが、航空需要にはようやく回復傾向が見られます。この流れをしっかりとつかみながら、少しでも早く業績回復に結び付けるよう、努力してまいります。株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2010年3月

代表取締役社長

伊東 信一郎